

九条みなみそうま

「みなみそうま九条の会」会報 No.435

(旧・はらまち九条の会) 福島県南相馬市
2026(令和8)年 7月10日(金)発行



ピースマーク(英語ではPeace symbol)平和や反戦運動のシンボルとして世界中に定着している。1958年に芸術家ジェラルド・ホルトムがデザイン。核軍縮 Nuclear DisarmamentのN・Dの手旗信号を重ねた。

渡辺 治先生(一橋大学名誉教授・「九条の会」事務局) 記念講演会 「高市政権による9条改憲・戦争準備の企てにいかに関わり向かうか」



渡辺 治先生

○5月30日(土)午後、福島市のテレサホールで「第15回九条の会東北交流会」が開かれ、同時に渡辺治先生の講演会が開催されました。約2時間の濃密な力こもった講演で、出席者90名(zoomでも視聴)も熱心に聴き入り、感激し涙を浮かべていた方も。○特に印象に残ったことを、断片的ですが挙げてみました。

改憲阻止のため、今こそ「九条の会」の出番です

- ① 高市早苗首相が総選挙に大勝し、4月12日自民党大会で「時は来ました」と改憲に前のめりになるのは、戦争準備や大軍拡に「憲法9条」が立ちちはだかり、邪魔でしょうがないからです。中国を押し潰そうとするトランプ政権の圧力もあるが、トランプに言われなくとも高市首相自身の軍事強国への強い野望で加速しています。
- ② 高市首相は右翼政治家として、靖国参拝、教科書慰安婦記述問題、皇室の男系・男子存続のための養子制度、夫婦別姓反対、国旗損壊罪、スパイ防止法、また他の政治家は言わないことですが中国脅威論に基づく軍事強国化、軍需産業への投資や育成、武器輸出の拡大による経済成長などをめざし、大変個性的です。
- ③ 高市首相が岸田首相の軍拡以上に目指す4項目、①安保3文書見直しの戦争体制の大規模化、②米中戦争での自衛隊の主力化、③トランプのイラン攻撃でホルムズ海峡への自衛隊の護衛艦派遣は事前に「行きたい、行くんた!」と考えていた、④中国との戦争のための国民動員体制、国家情報会議法案やスパイ防止法などは、すべて日本国憲法の制約で簡単ではなく、高市首相は大変いら立ち、怒りを募らせている。
- ④ 自民党政権は50年代から6回も改憲を策動してきたが失敗し、野党の反対と80年間の市民運動で仕方なく「自衛隊は戦力ではない」「自衛のための必要最少限度の実力」と言わざるを得なかった。
- ⑤ 「ベトナム戦争に5万人の自衛隊を派兵せよ」とアメリカは強く要請したが、日本は侵略されていないのに参戦する「集団的自衛権」行使は禁止で、9条が大きな制約となり派兵しなかった。
- ⑥ 2004年の小泉政権下の改憲策動は、「9条の会」が年ごとに次々結成され2007年には全国で7500に増え改憲反対運動も高揚し、「市民と民進・共産・社会党の野党共闘」で挫折に追い込みました。
- ⑦ 第二次世界大戦の終戦後の80年間、アジアでは日本だけが戦争をしていない。9条の恩恵です。
- ⑧ もしも9条に「自衛隊」を明記したら、①自衛隊が合憲の本格的な軍隊となり、災害復旧など国民の生命財産を守ることに消極的になり、②9条2項は否定され、③徴兵制や徴用も合憲化される。
- ⑨ 「台湾有事」を起こさせないよう、日本がアジアの国々や市民にアピールし、外交で解決したい。
- ⑩ 今後戦争をさせないために「9条の会」の役割が大変大きく今こそ出番です。「戦争反対・高市改憲を許すな」と市民が声をあげる。今回のデモや集会は以前と違い6割が若い人や女性で、大手新聞がデモや集会を取上げてきています。新しい立憲野党を育てなければいけません。

- (講演会後の懇親会で)「私はずっと鈴木安蔵を研究してきました。南相馬市の鈴木家住宅を訪ねてみたい」「司法試験には憲法9条は絶対出題されない。だから9条を勉強する人はいません」
- 「九条の会」が、今年4月に発行のブックレット『高市政権の改憲策動に抗して』¥600
|| 挨拶小森陽一、小沢隆一・高田健氏の寄稿文、渡辺治先生の講演P7~59が必読です。

『私の戦争体験』 若い人たちに読んでほしい！ 各図書館や博物館に 市内の全小学・中学・高校にも寄贈



◆昨年12月に戦後80年と本会設立20周年を記念して発行した『私の戦争体験』は、掲載の戦争体験者やそのご家族、国立国会・福島県立・南相馬市の図書館や博物館、さらに南相馬市内のすべての小中学校・高校の20校にも寄贈いたしました。◆また、市内三島町の「おおうち書店」さんのご協力で販売も多くなり、数万円の益金が出ましたので会の収入としました。◆もう残部もわずかになりましたが、会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

▲「担任をしている小6生に読んでかかせました」という教師や、「本の表紙の、原町飛行場の石柱が空襲で被弾した写真に大変驚きました。今度見に行きます」という方、「知人に配ります」と10冊も購入された方、また市外や関東からの郵送依頼も数件ありました。

▶2026年5月16日『朝日新聞』声(投書)です。厚かましいと思いましたがここに掲載しました。この投書をご覧になって、広島市の「国立広島原爆死没者追悼平和祈念館」や東京の「地方史研究所」から問い合わせがあり寄贈いたしました。

「東北で初の空襲」は誤り

でも投書した原稿で私は「昭和20年2月16日の原町飛行場の空襲※は、東北で初の空襲」と書きました。ところがさすが投書の担当記者から疑問の指摘があり、改めて原町史の専門家に尋ねたところ、直前の昭和19年12月21日にいわき市赤井炭鉱で、また12月29日宮城県塩釜市でも空襲があり、「東北で初の空襲」は全くの誤りで、その部分は削除していただきました。

(※昭和20年2月16日の原町空襲

国見町にあった原町紡織工場で動員中の若者ら4名が犠牲になる)

この点について、私は今まで本会の「会報」や2023年5月3日の「護憲チラシ」などで軽々に同じ誤りを書いていました。訂正と心からのお詫びを申し上げます。

(事務局員 山崎健一)

2026年(令和8年)5月16日(土)

年月

日

曜日

月

声

Voice

平和のバトン

南相馬市でも戦争 冊子で伝える

無職 山崎 健一
(福島県 80)

約20年前、福島県南相馬市で護憲の会を立ち上げ、戦争しない国の堅持のため会員300人で活動してきました。戦争を忘れないよう、高齢者からの聞き取りや戦争体験の寄稿を集め、会報に掲載してきました。

昨年、戦後80年と私たちの護憲の会20周年を記念し、52人の体験をまとめた冊子「私の戦争体験」を出版。今では自分の町で戦争があったことを知らない人も増えており、特に若い世代に読んでもらえるよう、副題に「80年前、南相馬市でも戦争がありました」と付記しました。

会20周年を記念し、52人の体験をまとめた冊子「私の戦争体験」を出版。今では自分の町で戦争があったことを知らない人も増えており、特に若い世代に読んでもらえるよう、副題に「80年前、南相馬市でも戦争がありました」と付記しました。

会20周年を記念し、52人の体験をまとめた冊子「私の戦争体験」を出版。今では自分の町で戦争があったことを知らない人も増えており、特に若い世代に読んでもらえるよう、副題に「80年前、南相馬市でも戦争がありました」と付記しました。

会20周年を記念し、52人の体験をまとめた冊子「私の戦争体験」を出版。今では自分の町で戦争があったことを知らない人も増えており、特に若い世代に読んでもらえるよう、副題に「80年前、南相馬市でも戦争がありました」と付記しました。

会20周年を記念し、52人の体験をまとめた冊子「私の戦争体験」を出版。今では自分の町で戦争があったことを知らない人も増えており、特に若い世代に読んでもらえるよう、副題に「80年前、南相馬市でも戦争がありました」と付記しました。

会20周年を記念し、52人の体験をまとめた冊子「私の戦争体験」を出版。今では自分の町で戦争があったことを知らない人も増えており、特に若い世代に読んでもらえるよう、副題に「80年前、南相馬市でも戦争がありました」と付記しました。

会20周年を記念し、52人の体験をまとめた冊子「私の戦争体験」を出版。今では自分の町で戦争があったことを知らない人も増えており、特に若い世代に読んでもらえるよう、副題に「80年前、南相馬市でも戦争がありました」と付記しました。

会20周年を記念し、52人の体験をまとめた冊子「私の戦争体験」を出版。今では自分の町で戦争があったことを知らない人も増えており、特に若い世代に読んでもらえるよう、副題に「80年前、南相馬市でも戦争がありました」と付記しました。

会20周年を記念し、52人の体験をまとめた冊子「私の戦争体験」を出版。今では自分の町で戦争があったことを知らない人も増えており、特に若い世代に読んでもらえるよう、副題に「80年前、南相馬市でも戦争がありました」と付記しました。

主な内容は、市内にあった特攻隊員養成の飛行場のことや、そのために激しい空襲に遭い大勢の死者が出たこと、父親の出征と戦死の記憶、4歳で家族と旧満州(中国東北部)に入植して敗戦後の命がけの逃避行、シベリア抑留、広島で入市被爆した後に長崎で被爆した体験など様々です。

図書館や市内の全学校に寄贈し、会のホームページでも閲覧できるようにしました。戦争はウクライナや中東の遠いところだけでなく、自分たちが住む町の身近な所でもあったことを知り、断片的でも戦争の愚かさや伝わることを期待しています。

図書館や市内の全学校に寄贈し、会のホームページでも閲覧できるようにしました。戦争はウクライナや中東の遠いところだけでなく、自分たちが住む町の身近な所でもあったことを知り、断片的でも戦争の愚かさや伝わることを期待しています。

▲全国紙の投書採用はけっこう厳しく、匿名は不可、さりげない本人確認、「他紙への二重投稿はありませんね」と何度も念を押されます。内容のチェックも細かく、語尾などの訂正があれば伝えてきて、最後に「〇月〇日に掲載予定です」と連絡されます。